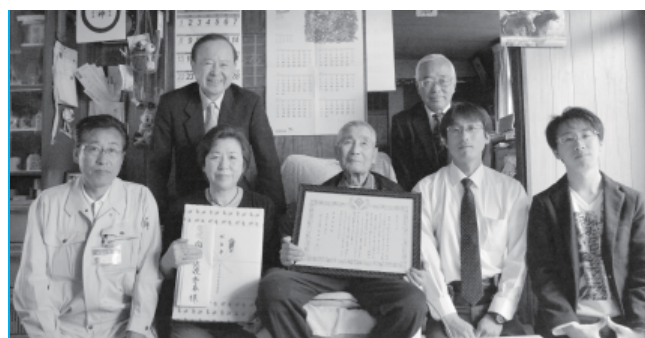




ドリカム推進事業審査委員会 6/6

地域特産品の開発や販路開拓を町が支援する『新ひだか町ドリカム推進事業』の審査委員会が役場静内庁舎で開かれ、平成25年度採用事業の実績報告と26年度申請の事業審査が行われました。

これは、地域ブランドづくりに意欲のある町民や事業者の夢や構想の実現を支援する事業で、平成23年度から実施。事業費の2分の1以内で上限50万円を助成します。審査会では、町内の2事業者がこれから開発する新商品やネット販売などについて事業内容を説明しアピールしました。



白寿祝状授与 6/10

佐渡秀春さんが99歳の誕生日を迎え、静内とさわ町の自宅で酒井町長から祝い状、町社会福祉協議会・川越会長から記念品が贈られました。

佐渡さんは三石富沢出身。平成12年に他界した妻・キヨミさんと6人の子どもを育てながら、新冠町共栄で田畑や軽種馬など農業を営んでいました。健康の秘訣は一日三食きちんと食べることで、現在は、長女の渡辺啓子さんと同居し、週3回のデイサービスを楽しみに生活されています。



障がい者乗馬会 6/11

障がい者に馬との触れ合いを楽しんでもらう『障がい者乗馬会』が日高軽種馬農協北海道市場多目的ホールで開かれ、約20人が乗馬や車いすのまま乗れるバリアフリー馬車を楽しみました。



第9回新ひだか町エプロンピック 6/1

新ひだか町女性団体連絡協議会(井上節子会長)による『第9回新ひだか町エプロンピック』が町静内体育館で開かれ、約110人が参加し、スポーツレクリエーションを楽しみました。

バトンの代わりに料理ペラを使った「ヘラヘラリレー」やカゴを背負って空き缶を拾う「クリーン新ひだか」などのユニークな種目や、定番の玉入れや綱引きなど全13種目を3チームで競い合いました。参加者はさわやかな汗を流しながら、友情の輪を広げました。



第26回イチャルパ 6/1

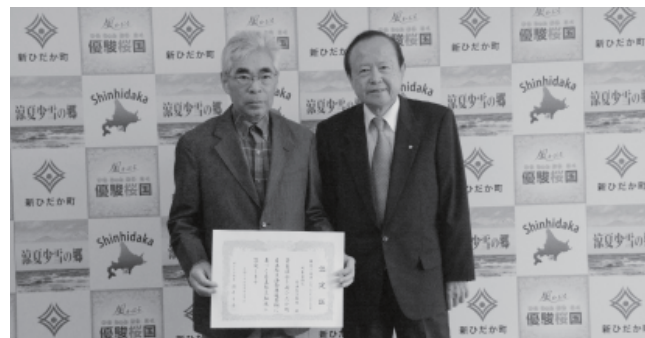
新ひだかアイヌ協会(大川勝会長)による先祖供養の儀式『イチャルパ』が静内真歌のチセ(アイヌ民族の伝統家屋)で行われ、約130人が参加しました。

静内霊園の無縁仏納骨堂に眠るアイヌ民族の先祖2,695人を供養するために毎年実施されており、今年で26回目。参加者は、祭壇に柳の枝を削って作ったイナウ(木幣)を地面に刺し、果物や酒を供えて先祖を弔いました。



親睦パークゴルフ大会 5/29

町老人クラブ連合会による『親睦パークゴルフ大会』が三石蓬莱山公園パークゴルフ場で開かれ、93人が参加し、心地よい汗を流しながら、親睦と交流を深めました。



自主防災組織設立認定 5/30

町は、地域住民が自主的に組織し地域の防災活動を行う『自主防災組織』を設立した静内地区の新生自治会(松本重樹会長、231世帯)に認定証を交付しました。

新生自治会は今後、町からの助成金で毛布やコンロなどの備蓄品を購入するほか、防災訓練などを実施。松本会長は「高齢者や体の不自由な人の避難時の対処法が課題。お互いが助け合い、災害に強い地域にしたい」と話しました。現在、自主防災組織は、町内全体で35団体が組織しています。



農業研修生へ認証授与 5/30

町農業振興対策協議会(会長・酒井芳秀町長)は、新規就農を目指し今春から町内で農業研修している4名に、研修生としての認証を授与しました。

研修生は、道内外の40代の夫婦2組4名。1年目は静内地区のミニトマト農家で研修し、2年目は静内目名のハウス団地で研修後、町内での独立を目指します。研修生は「研修の機会を与えてくれた関係者に感謝。一から栽培技術を習得し努力していきます」と抱負を述べました。



地域安全キャンペーン 5/29

町防犯協会(藤江龍弘会長)による『地域安全キャンペーン』が、イオン静内店で開かれ、静内農高生が栽培したメランポジュームの鉢花を買い物客に配布し、防犯を呼びかけました。



森は海の恋人運動 5/28

町緑化推進委員会(会長・酒井芳秀町長)による緑あふれる環境づくり、豊かな海づくりを目指す『森は海の恋人運動』国道周辺緑化事業植樹祭が静内川左岸公園付近を会場に開かれました。

参加した約120人の町民は、ニトリホールディングスの助成を受けて購入したクロマツや町花のエゾヤマツツジ、ニトリザクラなど計690本の苗木をクワやスコップを使い、一本一本丁寧に植えました。



春の森林教室 5/24

町教育委員会による『春の森林教室』が町福祉センターと三石ダム付近で開かれ、15名が参加し、植樹や森林散策を通して身近にある山への関心を深めました。